

# 長崎県立中五島高等学校

長崎県立中五島高等学校は、昭和四十年に長崎県立上五島高等学校の奈良尾分校、若松分校として設立され、四十八年に両分校が統合し、長崎県立中五島高等学校として独立し、令和七年度に創立六十周年を迎えます。令和五年度には県立学校初のコミュニティ・スクールとなりました。

令和五年度現在、生徒数は約六〇名。「域生くつないでいく、私たちの手で」というキャッチフレーズを掲げ、『生徒、保護者、職員の全てにとつて魅力ある学校』『コミュニティ・スクールとして、地域を支え、地域に愛され、地域とともにある学校』『さまざまな活動を通して、『生き抜く力』を身に付けられる学校』を目指し、一人一人がイキイキと輝く学校生活を送っています。



## ボランティア活動

春の歓迎遠足では高井旅海水浴場の清掃活動、奈良尾トライアスロンではエイド等のボランティア、その他、地域清掃を行っています。



## 模擬会社（商業教育）

模擬会社の活動は令和5年度20周年を迎えました。商品開発、模擬会社の設立・運営、地域販売実習などを通じて、商業を実践的に学んでいます。収益の一部は町に還元しています。



## パブリックワーク

平成27年度から取り組んでいる地域課題解決型学習「パブリックワーク」は、令和5年度で9代目になりました。平成30年には「第11回キャリア教育優良委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受賞した本校の核となる取り組みです。地域の皆様のご協力で毎年、充実した学習を行っています。令和5年には、提案の一つ「椿実代理収穫制度」が町に採用されました。



## RAC（ラック）

RACとは、通級による指導（通級指導教室）のことで、生活の困りが「楽」になるための学習、「ラッキー」な将来に向けてチャレンジする学習を行っています。

